

紀 要 原 稿 の 書 き 方

1) 投稿報文の規定

1. 投稿者は鹿児島大学水産学部・研究科の構成員および構成員であったものとし、共著の場合はそれ以外の執筆者を含むことは差し支えない。投稿報文は水産学および水産業に関連した原著で、未発表のものに限る。

2. 「自然系学術論文」の構成は、原則として、**標題 (Title)**, **要約 (Abstract)**, **緒言 (見出しを付けない)**, **実験方法 (Materials and Methods)**, **結果 (Results)**, **考察 (Discussion)**, **謝辞 (Acknowledgements)**, **引用文献 (References)** の順とする。「社会系学術論文」の場合は、**章, 節 (中節, 小節)**, **要約**, **引用文献等**の構成とする。

3. 「研究ノートおよび活動報告」については、**標題**, **要約**, (引用文献) 以外は特に一定の構成を定めない。

4. 標題はなるべく具体的で簡潔なものであることとし、**標題の下に著者名と英文のキーワード**を付ける。

5. **要約 (Abstract)** は英文で書かれたもので、原則として **100 ~ 200 語**とする。「論文」および「研究ノート」の**図表キャプション**は原則として英文とする。

6. 原稿は電子ファイル (電子媒体に保存) **1部**を提出する。

2) 報文の執筆要領

1. 表紙: **標題**, **著者名**, **ランニングタイトル**, **Keywords**, **所属 (脚注に記載)**を一括して記入する。

2. **標題**: 和文標題は明朝体・太字 (ゴシック)

16 pt を用い、中央揃いとする。英文標題は **Times New Roman, 16pt** を用い、中央揃いとする。英文の場合、冠詞、接続詞、前置詞以外は第 1 文字を大文字とする。和文の報文には和文標題と英文標題を記入する。

3. **著者名**: 和文は明朝体 **12 pt**, 英文は **Times New Roman 12 pt** を用い、両者とも中央揃いとする。英文の場合、日本名も名、姓の順とする (例; Taro Nakayama and Jiro Hokkai)。共著者の所属が異なる場合は、各著者名に上付き数字 (1,2,3 など) を付けて区別する。**Corresponding author** (連絡担当者) にはさらに「*」を付ける (例; 中山太郎, 1 * 北海二郎 2)。和文の報文には和文と英文の著者名を記入する。

4. **Key words**: **5 語程度**の英単語 (熟語) を選別し、**Times New Roman 12pt** (見出しのみボールド) を用いて記入する。

5. **所属名および住所**: 脚注に著者の所属講座等を和文で書き、引き続き () 内に英文で所属講座等と住所を記載する。さらに **Corresponding author** には原則として **Email address** を付ける。明朝体および **Times New Roman** の **11 pt** を用いる。

6. **ランニングタイトル**: 表紙にランニングタイトル (短縮題目) を和文で **20 字以内**, または英文で **50 字以内** (著者名は別) で記入する。明朝体および **Times New Roman** の **12 pt** を用いる。(例; 中山太郎ら: 鹿児島湾における曳網試験)

7. Abstract : Abstract (要約) は英文で書かれたもので、原則として 100 ~ 200 語とする。見出しは Times New Roman (ボールド) の 12 pt を用い、本文は Times New Roman の 11 pt を用いる。Abstract は別ページにし、ダブルスペースで印字する。

8. 本文 : 緒言 (Introduction), 実験方法 (Materials and Methods), 結果 (Results), 考察 (Discussion), 謝辞 (Acknowledgements) の大見出しは明朝体 (Times New Roman, ボールド) 12 pt を用い、中央揃いとする。中見出し、小見出しは左寄せとし、明朝体 (Times New Roman, ボールド) 12 pt を用いる。本文は原則として明朝体 (Times New Roman), 11 pt を用い、ダブルスペース (25 行程度) で印字する。生物の学名は属および種名をイタリック体とし、和名はカタカナで表記する。単位は原則として SI 単位を用いる (例 ; mg, g, km, m, cm, mm, ppm, cpm, l, ml, s, min, h, mol など)。本文中の人名は姓のみを記し、名と敬称は省く。

9. 文献: 引用文献は本文中の右肩に 1), 2, 4), 1-3) のように上付きで付記し、報文の最後に番号順に記載する。引用文献の書式は、「著者名 (発行年). 標題. 雑誌名 (書名), 巻 (号) : ページ。」の順とし、書き方は以下の例に準ずる。雑誌名の省略形は慣用に従い、イタリック体とし、巻数はボールドにする。原則として明朝体 (Times New Roman), 11 pt を用いる。

(1) 雑誌からの引用

- 1) Okano, T., H. Suzuki, and M. Horie (2003). Habitat use and activity patterns of three Japanese freshwater crabs of the genus *Geothelphusa* (Decapoda, Brachyura, Potamidae). *J. Crust. Biol.*, 23 (2): 308–317.
- 2) 長野昌子, 片山知史 (2015). 日向灘におけるマダイ *Pagrus major* の生活史特性と肥満度の経年変化. *日水誌*, 81: 219-226.

(2) 著書からの引用

- 1) Itakura, T., M. Ishizuka, and S. Fujita (2003). P450enzymes in fish, in “Molecular Biology of P450” (ed. by Ishimura, T., T. Ohmura, and Y. Fuji). Kodansh Scientific, Tokyo, pp. 167–182 (in Japanese).
- 2) 塚本勝巳 (2002). 遊泳, 「魚類生理学の基礎」(会田勝美編). 恒星社厚生閣, 東京, pp.109-127.
- 3) Matsuda, Y. (2003). Missing links in ocean governance, in “Proceedings of the 11th Conference of IIFET”. August 19–22, 2002, Wellington, New Zealand, pp. 19–22.
10. 字体の指定: イタリック体 (下直線), ゴシック体 (下波線), 上付き (V), 下付き (Λ) を赤で指定する。
11. 図表: 図表は原則として英文で作成するが, A4 用紙 1 枚に収まる形にする。原図の余白に希望縮尺率を明示する。図 (写真) については 1 枚ごとに原図を作成し, 表題, 説明等は別ページに一括して記載する。図表および写真の番号は「Fig.1.」, 「Table 1.」, 「Plate 1.」とする。図や写真等は, JPEG, TIFF, EPS ファイル形式とし, 解像度は 300 dpi ~ 1200 dpi 程度とする。